

2017 年度：新製品



2016
年度

環境活動レポート

発行日：2017 年 06 月 20 日



 太陽油脂株式会社

1 組織の概要	P.3
2 対象範囲	P.3
3 環境方針	P.4
4 環境管理実施体制	P.5
5 環境目標	P.6
6 環境活動計画	P.6
7 環境目標の実績	P.7
8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組	P.9
9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P.11
10 代表者による全体評価と見直しの結果	P.12
11 環境活動報告（2016年度）	P.13

1 組織の概要

事業所名及び代表者名 太陽油脂株式会社
代表取締役社長 堀内 泰治

所在地 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 2-7

環境管理責任者及び担当者連絡先 環境管理責任者：製造二部長 原 充宏
TEL:045-441-4962 FAX:045-441-9671



事業の概要

- ①事業内容 加工油脂部門：ショートニング、マーガリン、その他食用加工油脂および油脂加工品の製造販売
石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石鹸、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売
- ②事業規模 生産量：64,154 t／年
従業員数：280人（2017/1/31 現在）
床面積：14,638.46㎡

2 対象の範囲

認証・登録範囲 加工油脂部門：ショートニング、マーガリン、その他食用加工油脂および油脂加工品の製造販売
石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石鹸、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売

レポートの対象期間及び発行日 対象期間：2016年04月01日～2017年03月31日
発行日：2017年06月20日



3 環境方針

A-KE002-02-2

環 境 方 針

太陽油脂は、「誠実をモットーに、確かな技術とつくり精神に裏付けられた、人と、地球に優しい、安心・安全な製品の提供と各種の経営活動を通じて、心豊かで健康的な暮らしと社会・自然の持続可能な発展に貢献します」と掲げた企業理念の下に、以下の環境方針を定めます。

1. 環境、社会との共生に視点を置いた企業活動

- 1-1、太陽油脂は重要な社会的課題・環境問題に真摯に対応する経営の実践を通じて社会的責任を果たしていきます。
- 1-2、太陽油脂は「人、社会そして環境への貢献」を考えた具体的な経営活動・事業活動を積極的に展開していきます。

2. 人と環境に優しい製品の提供

- 2-1、太陽油脂は、「人と、地球に優しい」に拘った食用油脂製品と石けん製品を通じて、お客様に豊かで「安心・安全な生活」とともに「環境に優しい生活」をも提供していきます。
- 2-2、太陽油脂は、原料調達・生産から製品使用までの企業活動のあらゆる段階での環境への取り組みにおいて、環境関連法規、自主ルール等を順守しつつ「省資源・省エネルギー」「排水・廃棄物削減、リサイクル」等を推進していきます。
- 2-3、太陽油脂は、「食品廃棄物の発生抑制、再生利用」等による食品資源の有効利用を推進していきます。

太陽油脂は、この環境方針の全従業員への周知徹底を行い、全員参加による環境、社会との調和を目指した企業活動を推進していきます。

改訂日 2016年 2月 25日

太陽油脂株式会社

代表取締役社長

堀内 泰治

4 環境管理実施体制



5 環境目標

2015年度の実績を踏まえ、2016年4月に見直した環境目標及び中期環境目標は以下の通りです。
(尚、2014年度～2016年度の二酸化炭素排出係数（東電）は0.525（kg -CO2/ k w h）を使用）

(年度：4月～3月 以下同じ)

製品生産量当たり	基準年度実績 2013 年度	基準年度比 2014 年度目標	基準年度比 2015 年度目標	基準年度比 2016 年度目標
二酸化炭素排出量 (kg-CO2/t)	252.24	98.75%	94.80%	93.85%
廃棄物排出量 (t/t)	0.0630	99.52%	96.86%	95.89%
食品廃棄物の発生抑制 (t/t)	0.0233	98.56%	90.29%	89.39%
食品リサイクル リサイクル率（%）	98.36%	98.00%	98.00%	98.00%
排水量 (m3/t)	4.01	99.51%	95.62%	94.66%
化学物質使用量 (kg/t)	0.0553	100.00%	100.00%	100.00%
グリーン購入 (作業着、事務用品、文具の グリーン購入実施率)	48.50%	55.00%	50.00%	50.00%
環境配慮設計 (石けん・化粧品事業)	41 品 / 年	40 品 / 年	40 品 / 年	40 品 / 年
地域とのコミュニケーション (石鹸学習会など)	106 回 / 年	102 回 / 年	100 回 / 年	100 回 / 年

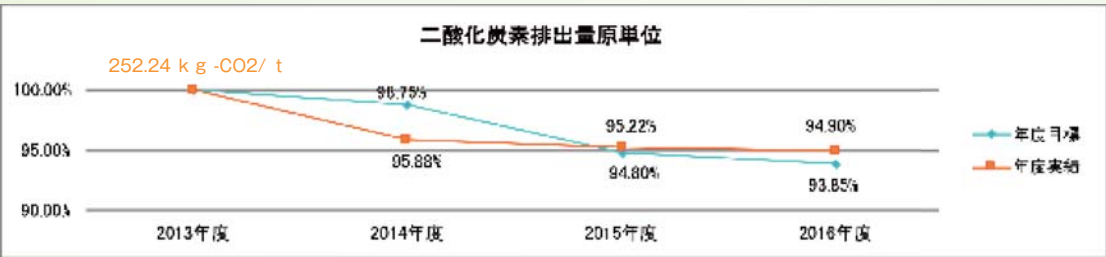
6 環境活動計画

活動項目		取り組み内容
二酸化炭素排出量削減 <東電：排出係数> 0.525kg-CO2/kWh 2013年度比 (93.85%)	電気使用量 原単位削減 2013年度比：96.25%	① 事務所用蛍光灯及び屋外灯の更新時にLED照明を積極的に導入。 ② 6月～10月 クールビズの実施。 ③ 空調の温度管理を徹底する。 夏（6月～9月）27～28℃設定 冬（12月～3月）20～22℃設定 ④ 工程事故削減など無駄のない製造実施。
	都市ガス使用量 原単位削減 2015年度比：110%	① 生産量にあわせた効率の良いボイラー運転をする。 ② コージェネ設備の年間稼動。 ③ 迅速な蒸気漏れ補修など熱エネルギーロスを削減する。
廃棄物総排出量削減 2013年度比 (96.86%)	一般廃棄物排出量 原単位削減 2013年度比 100%以下	① 紙の使用量削減（縮小コピーや両面コピー実施、FAXのメール送信化） ② マイタオルの使用を推進する。（ペーパータオル使用量削減） ③ 一般廃棄物の分別徹底で単純焼却ごみを削減する。
	廃白土油脂分 含有量削減 2015年度比：99%	① 小集団活動取組みにて廃白土油分を削減する。 ② 小集団活動取組みにて不適合品を削減する。（廃油、廃脂肪酸量削減）
食品廃棄物発生抑制 2013年度比 (89.39%)	食品廃棄物 発生量削減 2013年度比 (99.84%)	① 賞味期限切れ製品を削減する。（無駄のない生産計画） ② 小集団活動取組みにて不適合品を削減する。（廃油、廃脂肪酸量削減）
	食品リサイクル率 (98%以上)	① 再資源化率を監視し、食品リサイクル率98%以上を継続維持する。
総排水量削減 2013年度比 (94.66%)	水使用量 原単位削減 2013年度比 (93.07%)	① 水道栓の交換（ワンタッチ式へ変更） ② 冷却水の有効利用（再利用） ③ 手洗い設備の自動化（バッテリー式） ④ 洗浄方法の見直しや洗浄水の適正使用により水使用量を削減する。
化学物質使用量削減	化学物質使用量原単位 2013年度比100%以下	① 使用量適正管理により2013年度使用量原単位比：100%以下にする。
グリーン購入推進	グリーン購入実施率推進 (50%)	① グリーン購入対象品の掲載されたカタログを部署に配布し購入を推奨する。 (職服、事務用品、文具を対象)
環境配慮設計	環境配慮設計（40品/年）	石けん化粧品事業 ① 化学物質を使用せず石鹸をベースにした商品開発 ② RSPOロゴマークを表示したシャンプー、リンス等の販売
地域とのコミュニケーション	地域とのコミュニケーション (100回/年)	① 工場見学会、手作り石けん教室、環境講演会を開催する ② 地域清掃活動の継続実施（本社工場～入江橋周辺）

7 環境目標の実績

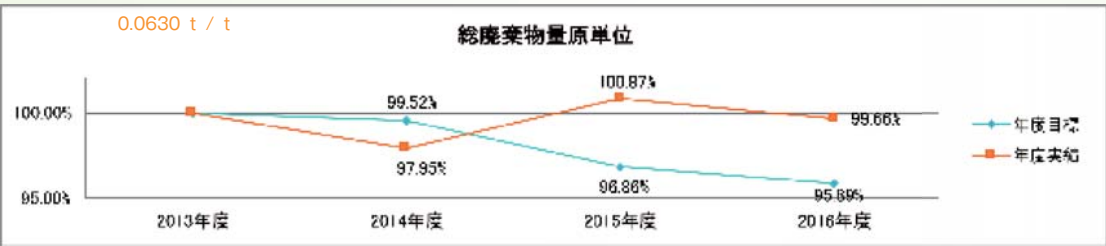
① 二酸化炭素排出量原単位：Kg-CO2 / t

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	評価
年度目標	100.00%	98.75%	94.80%	93.85%	△
年度実績	100.00%	95.88%	95.22%	94.90%	



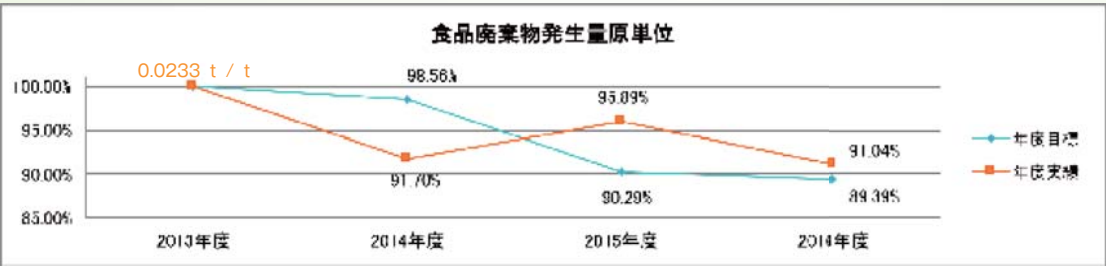
② 総廃棄物量原単位：t / t

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	評価
年度目標	100.00%	99.52%	96.86%	95.89%	×
年度実績	100.00%	97.95%	100.87%	99.66%	



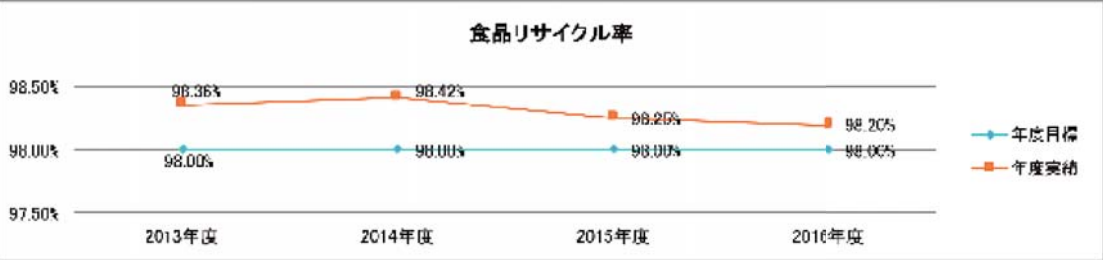
③ 食品廃棄物発生量原単位：t / t

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	評価
年度目標	100.00%	98.56%	90.29%	89.39%	△
年度実績	100.00%	91.70%	95.89%	91.04%	



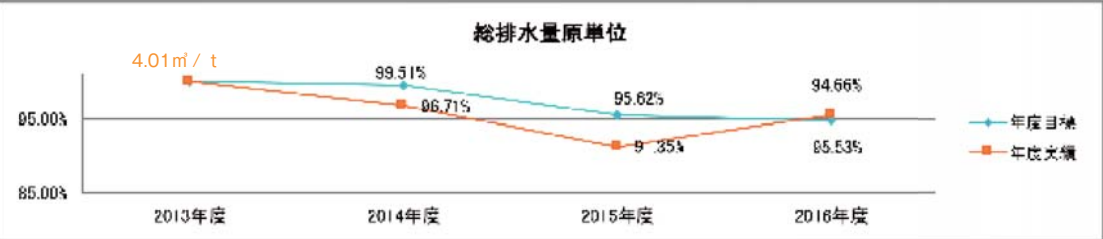
④ 食品リサイクル率（％）

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	評価
年度目標	98.00%	98.00%	98.00%	98.00%	○
年度実績	98.36%	98.42%	98.25%	98.20%	



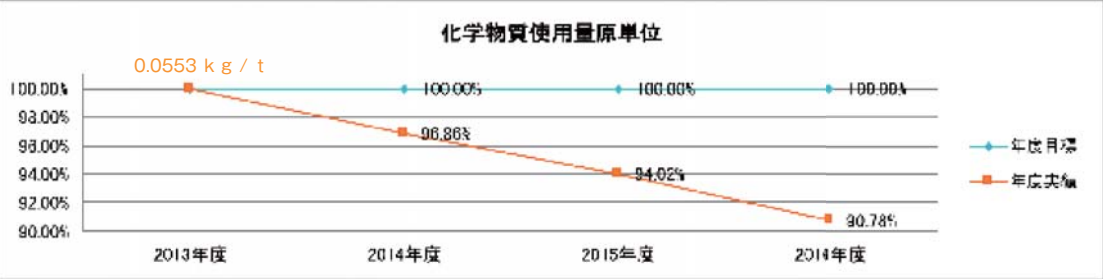
⑤ 総排水量原単位：m³／t

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	評価
年度目標	100.00%	99.51%	95.62%	94.66%	△
年度実績	100.00%	96.71%	91.35%	95.53%	



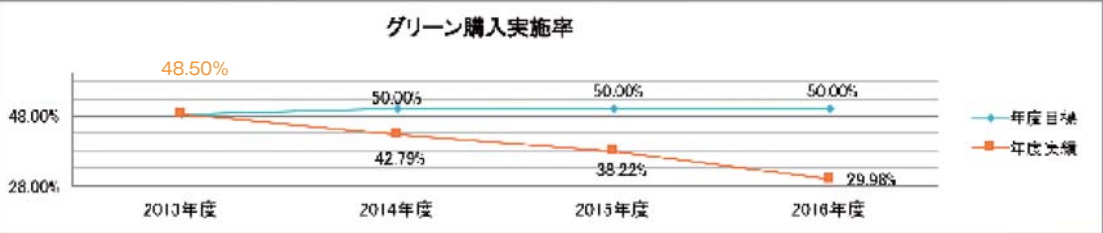
⑥ 化学物質使用量原単位：k g／t

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	評価
年度目標	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	○
年度実績	100.00%	96.86%	94.02%	90.78%	



⑦ グリーン購入実施率（％）（作業着、事務用品、文具のグリーン購入実施率）

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	評価
年度目標	48.50%	50.00%	50.00%	50.00%	×
年度実績	48.50%	42.79%	38.22%	29.98%	



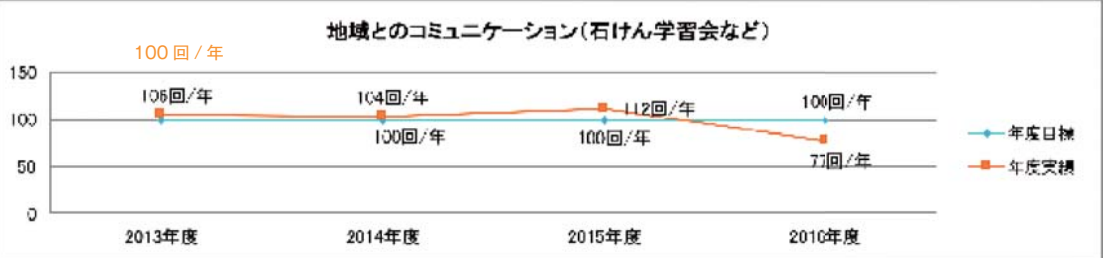
⑧ 環境配慮設計（石けん化粧品事業）：品/年

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	評価
年度目標	40 品 / 年	40 品 / 年	40 品 / 年	40 品 / 年	○
年度実績	41 品 / 年	43 品 / 年	27 品 / 年	58 品 / 年	



⑨ 地域とのコミュニケーション（石けん学習会など）：回/年

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	評価
年度目標	100 回 / 年	100 回 / 年	100 回 / 年	100 回 / 年	×
年度実績	106 回 / 年	104 回 / 年	112 回 / 年	77 回 / 年	



8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組

環境活動計画		取組結果とその評価・＜次年度の取組＞
二酸化炭素排出量削減 ＜東電：排出係数＞ 0.525kg-CO2/kWh 目標 2013年度比：93.85% 結果 2013年度比 (94.90%)	電気使用量 原単位削減 2013年度比：96.25%	目標（2013年度比：96.25%）⇒結果（100.22%）（評価：×） ＜次年度取組＞ ① 消灯やクーラービズなど無駄な電気使用削減の取組を継続実施する。 ② 小集団活動取組みにて不適合発生を削減する事で無駄なエネルギー使用を削減する。
	都市ガス使用量 原単位削減 2015年度比：110%	目標（2015年度比：110%）⇒結果（110.40%）（評価：△） ＜次年度取組＞ ① 作業改善により蒸気の使用量を削減する。 ② 小集団活動取組みにて不適合発生を削減する事で無駄なエネルギー使用を削減する。
廃棄物排出量削減 目標：2013年度比 (95.89%) 結果（99.66%）	一般廃棄物排出量 原単位削減 2013年度原単位 比：100%以下	目標（2013年度比：100%）⇒結果（117.11%）（評価：×） ＜次年度取組＞ ① ごみの分別徹底と廃棄されているごみのリサイクル化を推進する。（秤設置） ② コンビニ弁当容器などの持ち帰り廃棄の推奨
	廃白土油脂分 含有量削減 2015年度比：99%	目標（2015年度比：99%）⇒結果（98.94%）（評価：○） ＜次年度取組＞ ① 設備改造により更なる削減を実施する。
食品廃棄物発生抑制 目標：2013年度比 (89.39%) 結果（91.04%）	食品廃棄物発生量削減 2013年度比：99.84%	目標（2013年度比：99.84%）⇒結果（93.02%）（評価：○） ＜次年度取組＞ ① 小集団活動取組みを継続実施し更に食品廃棄物を削減する。
	食品リサイクル率 98.00%以上	目標（98.00%）⇒結果（98.20%）（評価：○） ＜次年度取組＞ ① 再資源化率の監視活動を継続実施する。
総排水量削減 目標：2013年度比 (94.66%) 結果（95.53%）	水使用量原単位削減 2013年度比：93.07%	目標（2013年度比：93.07%）⇒結果（94.13%）（評価：△） ＜次年度取組＞ ① 冷却水を計画的に循環方式に変更する。
化学物質使用量削減	化学物質使用量原単位 2013年度比： 100%以下	目標（2013年度比：100%）⇒結果（90.78%）（評価：○） ＜次年度取組＞ ① 使用量適正管理を継続実施する。
グリーン購入推進	グリーン購入 実施率推進 (50%)	目標（購入実施率：50%）⇒結果（29.7%）（評価：×） ＜次年度取組＞ ① グリーン購入対象品をリスト化（明確化）すると共に運用手順書を周知する。 ② グリーン購入実施率の計算方法を金額ベースに変更。（初年度はデータ取り）
環境配慮設計	環境配慮設計 (40品/年) 石けん化粧品事業	目標（40品/年）⇒結果（58品/年）（評価：×） ＜次年度取組＞ ① 更に環境配慮要素を追加した製品化率75%以上の目標に変更。
地域とのコミュニケーション	地域との コミュニケーション (100回/年)	目標（100回/年）⇒結果（77回/年）（評価：×） ＜次年度取組＞ ① 工場見学会、手作り石けん教室の実施回数ではなく参加人数に目標を変更。 ② 本社工場周辺の清掃活動を継続実施する。

1）主要な取り組みの総括評価

エコアクション21認証取得後、8年が経過し取組み成果が見え難くなり少しマンネリ感が出てきた様に感じますが、次年度から新たな3年計画がスタートしますので、気持ちを新たに環境活動に取り組んで行きたいと思います。

＜取り組みの評価＞

- ① 二酸化炭素排出量原単位削減の取組みは基準年度比目標：93.85%に対し94.90%（△）
- ② 廃棄物総排出量原単位削減の取組みは基準年度比目標：95.89%に対し99.66%（×）
また、食品廃棄物排出量原単位削減の取組みも基準年度比目標：89.39%に対し91.04%（△）
- ③ 総排水量原単位削減の取組みは基準年度比目標：94.66%に対し95.53%（△）
- ④ 食品リサイクル率98%以上の目標や化学物質使用量原単位削減は目標を達成しました。
- ⑤ 地域貢献活動として工場周辺の清掃活動も継続実施いたしました。しかしながら、グリーン購入実施率の目標は基準年度を下まわり目標未達成となってしまいました。次年度はグリーン購入品リスト化や運用手順の周知を徹底し少しでも実施率を上げていける様に取り組んで行きたいと思います。（金額ベースでの実施率集計に変更）

全体の総括評価：主要項目①～③で目標未達成となってしまったが、実績値は前年度より全て改善する事が出来た。次年度は新たに立ち上げたユーティリティ削減チームや廃棄物削減チーム、グリーン購入推進チームを中心に環境活動を活性化させ推進して行きたいと思います。

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1）適用法令等の順守状況の確認及び評価の結果

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	全社	「公害防止統括者（同代理者）選任・解任届出書」、「大気関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」、「水質関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」	○
大気汚染防止法	ボイラー、ガスタービン、悪臭	「ばい煙発生施設（使用、変更）届出書」排煙（N o xの許容限度）の規制基準	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		「指定事業所設置許可申請書」、「指定事業所に係る変更許可申請書」年2回N o x測定、定期報告 異常時の処置と対策	○
水質汚濁防止法	排水処理設備	「特定施設設置（使用、変更）届出書」、「特定施設使用等開始報告書」 排水規制基準、水質測定、定期報告	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		公共用水域に排出される排水の規制基準 異常時の処置と対応	○
騒音規制法	圧縮機	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
振動規制法	全社	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
工場土地法	生産施設、緑地	生産施設、緑地の確保	○
消防法	屋内貯蔵所	「危険物貯蔵所設置許可申請書」「指定可燃物貯蔵・取扱開始届出書」	○
	指定可燃物（タンク） 少量危険物（薬品庫）	年2回の消防用設備定期点検。 「少量危険物貯蔵開始届出書」指定数量内の貯蔵、施設の点検、防災訓練強化	
浄化槽法	浄化槽	「浄化槽設置計画書」年1回の定期検査、年2回の清掃	○
海洋汚染防止法	全社	「油脂保管量報告」	○
横浜市福祉のまちづくり条例	建物、トイレ、スロープ等	「整備基準適合証」	○
横浜市駐車場条例	構内駐車場	「附置義務駐車施設（設置、変更）届出書」	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（P R T R法）	化学物質	「第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書」	○
P C B廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	コンデンサー	「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分状況等届出書（保管事業者用）」	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物置き場	「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」マニフェスト管理 「産業廃棄物処理計画」廃棄物置き場での掲示済み	○
横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例（規則）	全社	「産業廃棄物排出状況報告書」	○
高圧ガス保安法	冷凍設備	特定施設届出、規制基準値内、危害予防規定提出 危害予防規定届出、冷凍保安責任者を選任届出	○
改正フロン排出抑制法	全社	簡易点検（1回/3ヶ月以上）・有資格者による定期点検（7.5 k w以上）	○
省エネ法 （エネルギーの使用の合理化に関する法律）	全社	CO ² 換算で温室効果ガス排出算出 排出量の定期報告（省エネ法定期報告で代用）	○
温対法 （地球温暖化対策の推進に関する法律）	全社	「エネルギー管理統括者／エネルギー管理企画推進者選任届出書」、 「エネルギー管理者選任届出書」 「定期報告書」、「中長期計画書」（1%以上／年平均のエネルギー消費原単位低減努力）	○
容器包装リサイクル法	工場	再商品化義務、再商品化委託料金の算出、識別表示 「再商品化委託契約申込書」（（財）日本容器包装リサイクル協会）	○
食品リサイクル法	工場、倉庫	食品廃棄物の再生利用、削減計画、報告	○
労働安全衛生法	全社、分析部署	健康診断（特殊検診含む）、有機溶剤中毒予防規則の遵守・・・問題なし	○

2）違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。また、関係当局より違反の指摘及び訴訟は過去、3年間ありませんでした。

10 代表者による全体評価と見直しの結果

進んでいる事、停滞している事、それぞれあるが、取り組みに対する課題を明確にし、それに対する改善策を設置すること。また改善の取り組みは、ストーリーを考えた上で進めていくこと。エネルギー削減は関係者が集まり、何をターゲットにするか良く吟味すること。まだタンク類から熱の放出・蒸気漏れがあるので、引き続き改善していくこと。エネルギー削減と熱の放出、蒸気漏れについては、使用量多い機器及び漏れの多い機器を選別し、優先順位づけて削減に取り組むこと。石けん化粧品類の返品と廃棄はルールを設けて運用すること。2019年度の二酸化炭素削減、廃棄物削減、総排水量削減の全社目標値は新設備稼動を加味して見直すこと。

11 環境活動報告(2016年度)

◎環境配慮設計商品の開発発売

最近の環境変化に伴い、日常使用している洗浄剤や化粧品で、地球環境を汚さず肌に優しい商品へのニーズが高くなっています。太陽油脂石けん・化粧品開発部では、環境にやさしい石けん製品を毎年開発しております。天然由来原料を使用したパックスベビーシリーズの人気商品の大容量版である『パックスベビーボディークリーム150g』を発売致しました。その他の新アイテムとしましては、サンリオとコラボレーションした『ハローキティシャーベットクリーム(3種)』『ハローキティリップクリーム(2種)』を発売しました。本年度に開発した商品は、全て下記の『環境配慮設計の基準』を満たし、オーガニック認証としては『エコサート認証』と『JONA認証準会員』を製造工場と一部製品で更新して取得を続けております。

環境配慮設計の基準

- ① P R T R指定物質、医薬部外品の表示指定成分の有害性の指摘のある合成化学物質は使用せず、石けんなどの生分解性の良い原料を使用する。
- ② 商品は常圧以下かつ約100℃以下の温度で製造する。
- ③ 段ボールなどリサイクルできる素材を採用し、廃棄時に有害物質を排出するプラスチック素材は使用しない。
- ④ 詰替可能なものは「詰替用商品」を積極的に作る。

環境配慮商品 2016年度新製品

● 素肌レシビシリーズ新製品



パックスベビー
ボディークリーム 150g

● サンリオ・コラボシリーズ新製品



ハローキティ ハンドクリーム

● サンリオ・コラボシリーズ新製品



ハローキティ リップクリーム 1.4g

◎エコアクション21普及活動

2016年8月24日横浜商工会議所に招かれ、環境省が策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21」の導入セミナーにて発表を行いました。環境対策の一環として既にISO14001等を導入している大手企業というよりは、比較的手軽に認証を取得したいと考えている中小企業市内27社30名の環境担当者に対してエコアクション21という選択肢を案内するという趣旨で行われました。実際の取組や費用面でのメリットや効果を非常に詳細に分かり易く説明、セミナーが終わってからも質問が出ており関心度の高さが伺い知ることが出来ました。

発表者コメント

発表後、活動事例やコスト効果を含め、多くの質問があり、環境に配慮した取組みは、どの企業においても重要な課題であることが解りました。今後も、他社のお手本になれるような、環境活動を広く進めようと感じました。



発表の様子

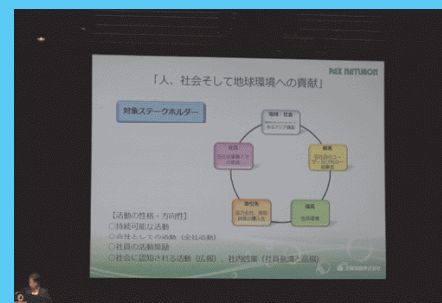
◎RSPO普及活動

太陽油脂では、世界各地で行なわれているパーム油の生産が、熱帯林の保全や、そこに生息する生物の多様性、森林に依存する人々の暮らしに深刻な悪影響を及ぼすことのないようにするため、「持続可能なパーム油」の生産と利用を促進する非営利組織、「持続可能なパーム油のための円卓会議」(RSPO)に参画しています。

2016年度では「RSPOジャパン・デー2016」と「ワークショップ持続可能なパーム油導入の為の課題と手法(実践編)」に参加し、他企業へのRSPOの普及活動を行いました。2016年9月27日東京フォーラムにて開催された「RSPOジャパン・デー2016」は、日本におけるパーム油調達を考えるきっかけとすべく行われたもので、直接の関わりを持つ製油メーカーや加工油脂メーカー、商社をはじめ食品メーカーや日用品メーカー、流通関係者など名だたる企業350名の中で、2015年1月よりいち早く石けん事業用原料(液体シャンプー他)で認証油の使用実績を上げた当社がパネルディスカッションのスピーカーとして、当社の取組状況等を概略・理念といった部分を発表しました。

2016年11月24日アイオス永田町にて開催された「ワークショップ持続可能なパーム油導入の為の課題と手法(実践編)」では認証油導入を検討している企業に対して、良い点ばかりでなく費用対効果や苦労した点などを分かり易く説明、質疑応答では各社の多くの質問に関心度の高さを伺い知ることが出来ました。今後もこのように当社が先駆けとなり他の企業へRSPOの普及する活動を進めることで、当社の企業理念にもある人と自然にやさしい製品を提供していきたいと思っております。

発表の様子



発表者コメント

持続可能なパーム油に関心を抱いている企業十数社に対し、太陽油脂の取組み内容について発表を行いました。社内での連携や具体的な購入手順、またRSPOに対し感じている問題や課題などをお話し、質問もいくつか頂きました。特に反響があったのは、太陽がRSPOへ取り組むこととなった経緯についてです。パーム油の環境面についてのお客様からの問い合わせに対し、太陽油脂が問題意識を持ち、2011年3月という日本においては比較的早い時期に加盟に至ったという事に、とても関心を抱かれている方が多かった様に感じます。国内においてパーム油の持続可能性に対する意識が段々と高まっている昨今、環境への貢献活動を引き続き継続・推進していきたいと考えております。

◎地域への貢献

太陽油脂は会社創立（1947年）当時より、「パックス」シリーズとして粉石けんや台所石けん、石けんハミガキなどをお届けしてきました。そして近年、「パックスナチュロン」、「パックスオリー」、「パックスベビー」、「お肌しあわせ」シリーズの石けんシャンプーなどの液体石けん類、クリーム類も製造販売してまいりました。この間、消費者や生協などの団体に、石けんについてより詳しく知っていただきたいため、石けんの使い方・環境に対する良さについて講習会などを通して広くお伝えしてまいりました。また、2015年度よりホームページ上で毎月2回一般の方の参加の募集も開始し、より多くの方に石けんの良さについて知っていただけるような取組みを開始しました。2016年度は、地域住民・学校・環境団体・NPO団体・生協等を対象に石けん講座、手づくり石けん教室、工場見学会を合計77回実施しました。

また、NPO法人や学校などへ協賛品として石けん製品を17回送りました。

石けん講座、工場見学会

＜内容＞

- ①植物油（オリーブ油、パーム油など）を使用し、香りや色を付ける5分でできるペットボトル石けん作り（小さい子供向けには石けんチップを使った、手ごねの石けん作りを体験）
- ②合成界面活性剤などの合成化学物質、PRT法での第1種指定化学物質を使わないシンプルライフ、石けん生活の提案
- ③実験による石けんの性質の確認（汚れ落ち、環境への影響、使用のコツ）
- ④製品を身近に感じることができる石けん工場の見学

＜対象(参加団体)＞

- ・生協（パルシステム生活協同組合連合会、コープ自然派事業連合、ナチュラルコープヨコハマ、なのはな生協、グリーンコープ連合など）
- ・行政・学校（子安小学校、西寺尾第二小学校、神奈川小学校など）
- ・共同購入・店舗（太陽サービス、大地を守る会など）
- ・環境団体（石けんネットワークなど）

参加人数
合計2,000人
(平均26人/回)

＜石けん教室の様子＞



地域の小学校の総合学習の一環として、昨年に引き続き「石けん教室」を開催しました。身近にある石けんを自分たちの手で実際に作ることで、楽しみながら環境についての学習が出来たと思います。これらの取り組み内容については、「泡エコ通信(ナチュロン通信)」にして希望者に年3回、9万部配布しています。

◎地域貢献活動

●地域清掃

地域貢献活動として、太陽油脂株式会社から国道までの道路周辺を毎週、清掃活動しております。2016年度には49回の清掃を実施しました。



◀清掃活動の風景

●町内会への協力

8月に町内会イベントの協賛品としてパックスナチュロンキッチンスポンジを2ケース付しました。町内会イベント（主にお祭りの準備・運営・後片付け）に参加し、地域への協力を行いました。



太陽油脂株式会社